

骨髄採取、麻酔に伴う合併症について (1993年1月～2018年3月末までの集計データ)

骨髄採取、麻酔に伴う合併症として報告された症例のうち、181例(2018年3月末現在)は骨髄バンク団体傷害保険の入通院保険が適用され、また51例は後遺障害保険が適用されました。

■喉頭肉芽腫(1例)

気管チューブを入れる刺激によって、喉頭に良性の腫瘍ができ、手術により切除しました。
(なお、気管チューブの刺激により一時的に声が変わることがまれにあります。)

■右下腿深部静脈血栓症(1例)

骨髄採取後、右下腿深部静脈に血栓が認められました。治療の結果、血栓は消失しました。

■左下肢痛(1例)

骨髄採取後、左大腿部から膝にかけて痺れが出現し、採取部位の痛みが長期間残存しました。日常生活には復帰しましたが、痛みが続きました。その後、徐々に改善傾向を示し、フォローアップを終了しました。

■尿道損傷(2例)

骨髄採取終了後、尿道カテーテルを抜去したところ出血がみられました。圧迫により止血を図ると共に、絶対安静を保ち鎮痛剤投与し退院延期となりました。経過観察にて改善し、フォローアップを終了しました。

■その他の合併症

【8例】 薬疹

【各7例】 角膜びらん、腰痛症

【6例】 大腿外側皮神経麻痺(左・右)

【各5例】 骨髄穿刺部の強い腰痛、大腿部の痛みとしびれ、採取部位の痛み(圧痛、疼痛)

【各4例】 皮下血腫、顎関節症(左・右)、右手指の痺れ感、手のしびれと痛み(左・右・両手)

【各3例】 腰痛悪化による再入院、尺骨神経麻痺・知覚鈍麻(左・右)、下肢神経障害・末梢神経障害、強い穿刺部痛、口唇びらん(上唇・下唇)、顎関節脱臼、〔採取部位/臀部〕から大腿にかけての疼痛

【各2例】 硬膜外麻酔による硬膜損傷、腎盂腎炎、喉頭肉芽腫(手術なし)、椎間板ヘルニア(腰部)、腸骨穿刺部痛(左・右)、肺炎(術後、誤嚥性)、仙腸関節炎、臀部から腰部疼痛による歩行困難、腰部痛、上腕神経叢麻痺(左・右)、左臀部のしびれ感、歯牙損傷、両眼瞼腫脹、口内びらん、結膜出血、水泡形成、臀部痛、接触性皮膚炎、尿道損傷、(上・下)口唇部のしびれ、麻酔覚醒後の不穏状態

【各1例】 骨片の残存、難聴の一時的悪化、骨髄採取部位の皮膚炎、菌血症と化膿性仙腸関節炎、点滴部位の長期にわたる静脈炎、骨膜炎、筋膜性腰痛症、急性化膿性扁桃腺炎、左右両臀部筋肉出血、気管支肺炎、腰痛・右下肢痺れ、外傷性坐骨神経障害、右下肢外側痺れと疼痛、変形性脊椎症、抗生物質投与によるアナフィラキシー、左外側大腿部知覚鈍麻、左大腿部背部痛、骨盤痛、腰部筋膜炎、上部消化管出血、喉頭外側面の潰瘍形成、嚥下不良、左腸骨棘の線状骨折、毛囊炎(下顎)、採取部位の腫脹と発熱、骨髄採取後の血腫および腸骨炎、ウイルス性食道炎、陰茎びらん、点滴部位の小結節、右前腕橈骨側のしびれ、筋膜性疼痛、歯冠破折、肩関節周囲炎、肘部管症候群、左腸骨剥離骨折、腰椎椎間板症、表層角膜炎、右目角膜上皮障害、左膝外側部の違和感、点滴部位の皮膚のびらん、尿道閉塞、発熱の継続、自己血血管外漏出による皮下血腫、右上口唇

の腫脹、術後の一過性口唇炎、左下肢の違和感と疼痛、左下肢の感覚鈍麻、右坐骨神経痛、採取部位の神経障害性疼痛、左臀部皮神経損傷、右大腿前面の知覚障害、穿刺部疼痛の持続と増強、右下肢全体のしびれと歩行時の左臀部痛、左肩の違和感および持続する疼痛、両膝内障、膝のしびれと違和感、深部静脈血栓症、頸部痛、採取部位の疼痛としびれ、左鎖骨骨折（転倒による）、採取部位から大腿にかけての疼痛、過呼吸発作、右肘正中部の疼痛、左下肢しびれ、尿道損傷、穿刺部鈍痛、感覚性単神経障害、複合性局所疼痛症候群、後上腸骨棘部位の疼痛、足第三趾末梢神経障害、圧迫による両側頬の皮膚表皮剥離、一過性の皮膚発疹（麻酔による）、顔面浮腫、右上殿皮神経障害、右頸部から肩の痛み、血圧計による加圧後の肘部痛、差し歯の損傷、両側側腹部の発赤、上気道炎、術後迷走神経反射、左橈骨神経損傷、左頸椎症性神経根症、[DLI]動脈穿刺後の血腫・内出血

※いずれも治癒又は消失しています。

※関節リウマチ（1例）が報告されましたが、本人に素因があったこと、また骨髓採取のみでリウマチにはなり得ないとの判断から、一部分の保険適用とされました。